

「令和3年度里山づくり育成研修会」
実施報告書

丹波の里山づくり促進事業実行委員会

1) 企画内容

① 研修会のねらい

「丹波の里山づくり推進事業」では、過去3年間にわたって“里山育成研修会”の開催を通じて、丹波地域の里山づくりの発信とPRを行ってきた。

平成30年度の研修会では、川上（木材の生産・供給現場）から川下（木材製品の加工・販売）までの現状を学びつつ、令和元年度には各活動団体での里山整備を見学し、昨年度は実際の里山づくりに必要なコンテンツ（調査から活用まで）を提供した。

今年度においては上記の実績を踏まえつつ、実際の里山づくりに関わるアクションが起こせるようなプログラムを用意する。

② 参加対象

- ▶ 丹波篠山・丹波地域に在住の方10～20名程度
- ▶ 施業を実践されている、もしくはこれから参加したいと思われている一般の方
- ▶ 里山活動団体に所属し、自身のスキルや知識を学びたい方

2) 各研修内容の報告

第1回：人工林をめぐる環境の変化と将来ビジョンを知る	
日時：12/18 10:00~12:00	場所：川阪公民館～施業現場（丹波篠山）
参加申込 15人（定数 20人） 当日参加 2人	ゲスト講師：高橋隆治さん (NPO 法人バイオマス丹波篠山)
<p>NPO 法人バイオマス丹波篠山の理事長・高橋隆治さんをお迎えし、丹波地域での人工林をめぐる環境の現状をレクチャーいただき、その実態についての課題や展望的なお話をいただきました。</p> <p>後半には、実際に施業現場を見学し、実際のチェーンソーによる間伐（伐倒）作業から、重機を使っの搬出作業までの一連の流れをデモンストレーションいただきました。</p> <p>過酷な環境下で、人工林の施業がいかに大変かを、参加者のみなさんが身を持って体験できたように思います。</p> <p>その後、木の駅に向かい、搬出された樹木がどのように活用されるかを見学しました。</p>	





第2回：木材加工の現場を見学しよう

日時：1/15 10:00~12:00

場所：丹波並木道中央公園

参加申込 25 人（定数 20 人）

ゲスト講師：西脇誠さん(丹波林産振興センター)

当日参加 2 人

丹波並木道中央公園内にある製材所にて、丹波林産振興センターの西脇誠さんをお迎えして、スギなどの丸太から板材に製材するまでの作業を見学しました。

まずはマルタを製材する際の注意点（部材や樹種によつての使い分けなど）や製材機の説明を受けたあと、実際に製材のデモンストレーションをしてもらいました。

製材したての木材に触れるのは初めての参加者が多かったようで、その感触を楽しんでいたように見えました。





第3回：広葉樹林（天然林）をめぐる環境の変化と将来ビジョンを知る	
日時：2/12 10:00~12:00	場所：丹波の森公苑
参加申込 26人（定数 20人） 当日参加 ○人/2人（リモート）	ゲスト講師：黒田慶子さん(神戸大学)
<p>神戸大学農学部の黒田慶子先生を講師に、リモート配信を行いました。参加者の半分程度がリモートでの参加、もう半分は会場となった丹波の森公苑で参加されました。</p> <p>内容は広葉樹林をめぐる現状と課題、特に管理上誤解されているような事例なども含め、前半をお話いただきました。</p> <p>後半は、広葉樹林の「材」としての活用方法について、取り組まれている事例などを挙げていただきながら説明いただきました。</p>	



第4回：野地板を使ってインテリア雑貨をつくろう	
日時：3/5 10:00~15:00	場所：ナチュラルバックヤード・ファクトリー
参加申込 32人（定数 20人） 当日参加 2人	ゲスト講師：足立伸也さん(ナチュラルバックヤード)

ナチュラルバックヤードの工房にて、足立伸也さんをお迎えして野地板を使ったクラフト作業を行いました。粗製材された野地板を、自由に組み合わせて自分の好きなものをつくるということで、参加者の方も楽しんでいました。

ホームセンターで使うような木材をカットする機械を実際に操作してみたり、コンプレッサーやインパクトなどさまざまな工具を使って、基礎的な使い方を学びつつ作業をしました。





第5回：里山資源を活用して、楽しんでみる

日時：3/20 10:00-15:00

場所：丹波年輪の里

参加申込 21 人（定数 10 人）

ゲスト講師：福畑慎吾さん(caf  soto)

実際参加 6 人

丹波年輪の里のクラフト広場にて、講師の福畑慎吾さんをお迎えして、生木丸太から斧とナイフだけで杓子をつくる「グリーンウッドワーク」の技術を学びました。

乾燥材を使ったクラフト以外にも、生木材を使って物をつくれるという発見を、作業を通して参加者のみなさんは感じたかと思います。

使用した材は「ホオノキ」で、まずは斧で粗方の形をつくり、仕上げにナイフを使って杓子を作り上げていきました。



